

## 4. 參考資料

## 大学等における学生支援の取組状況に関する調査(平成 29 年度)

# 調査票

### 【回答上の留意点】

- ・ 回答は、回答用ファイル（Excel）に入力し、提出してください。
- ・ 設問に年度の記載がない場合は、平成 29 年度中に実施、あるいは実施予定のものについて、回答してください。
- ・ 各設問における取組や実施状況に関し、一部の学部・学科に限って実施している場合についても、実施しているものとして回答してください。
- ・ 対象となる学生は、大学院生、学部（学科）の本科生、専攻科生、別科生です。
- ・ 短期大学（部）について、大学と併設されている場合であっても、それぞれ回答してください。

【Ⅰ 学長等の認識】	.....	P 224
【Ⅱ 学生支援に関する組織等】	.....	P 227
【Ⅲ キャリア教育・就職支援】	.....	P 231
【Ⅳ 生活支援】	.....	P 237
【Ⅴ 課外活動／ピア・サポート／ボランティア活動】	.....	P 242
【Ⅵ 学生相談】	.....	P 246
【Ⅶ 成績不振学生・不登校学生等】	.....	P 250
【Ⅷ その他】	.....	P 253

## 【I 学長等の認識】

貴学における学生支援の取組を俯瞰して判断いただける方（学長・副学長等）のご認識に基づいてお答えください。

### 1 学生支援全般に関する貴学の方針（グランドデザイン）についてお答えください。

#### 1-① 学生支援の取組全般について、該当する項目を1つ選択してください。

- a 現状よりも強化・充実させたい
- b 現状を維持していきたい
- c 現状よりも縮小したい

#### 1-② 学生支援の成果（好影響）として何を期待していますか。a～gのそれぞれについて、該当する数字を1つ選択してください。

- a 学生生活における支障・困難の除去  
強く期待している 5-4-3-2-1 殆ど期待していない
- b 正課の学修成果の向上  
強く期待している 5-4-3-2-1 殆ど期待していない
- c 学生の人間力の向上  
強く期待している 5-4-3-2-1 殆ど期待していない
- d 学生の大学生活への積極的な態度の向上  
強く期待している 5-4-3-2-1 殆ど期待していない
- e 就職率の向上  
強く期待している 5-4-3-2-1 殆ど期待していない
- f 入学志願者数の増加  
強く期待している 5-4-3-2-1 殆ど期待していない
- g 教職員のモチベーション向上などによる大学組織の活性化  
強く期待している 5-4-3-2-1 殆ど期待していない

#### 1-③ 学生支援を進めるための方策や課題に関し、a～pのそれぞれについて、該当する数字を1つ選択してください。

- a 自学にとって重要な学生支援領域の体制・スタッフを充実・強化したい  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- b 学生支援を全学で取り組むための体制・スタッフを充実・強化したい  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- c 学生支援に係る学外のアクターとの連携を充実・強化したい  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- d 学生支援のための学生スタッフを充実・強化したい  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- e 学生支援のための施設・設備を充実したい  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- f 学生支援に係る教員の能力・スキル向上が必要である  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない

- g 学生支援に係る職員的能力・スキル向上が必要である  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- h 職員の人事異動のサイクルの見直し等、人事システムの改革が必要である。  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- i 認証評価に対応する観点から、学生支援の体制や方法を整理することが必要である。  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- j 学生支援に対して、ヒト・カネ等のリソースをこれ以上投入するのは難しい  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- k 学生支援の効果が明らかでない  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- l 学生募集の観点からも、よりインパクトのある取組が必要である  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- m 「1」に関連してどのような取組を構想（想定）していますか。構想（想定）がありましたら、なるべく具体的にお答えください。  
( )
- n 入学から卒業まで一貫して学生をサポートする体制が必要である  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- o 自学の学生支援の取組について、もっと広報することが必要である  
強く思う 5-4-3-2-1 そう思わない
- p その他  
上記以外の課題で、貴学において克服すべきと考えている課題がありましたら、なるべく具体的にお答えください。  
( )

1-④ 貴学にとって、特に重視すべきと考える領域について、a～hの中から上位3つを選択し、順位を入力してください。

領 域	特に重視すべき領域 (上位3つに順位を入力)
a 学生相談	
b 修学・学習支援	
c キャリア教育（インターンシップを含む）	
d 就職支援	
e 生活支援	
f 課外活動	
g ピア・サポート	
h ボランティア活動	





## 【Ⅱ 学生支援に関する組織等】

### 2 学生支援に関する組織等についてお答えください。

2-① 下の記入例にならって、組織名称、支援内容、担当人数を入力してください。

#### (1) 組織名称

貴学における学生支援に関する組織の名称を入力してください。

※委員会組織は対象外とします。

※組織を全学的に入力する場合には、「キャンパスの別」欄に「全」と入力し、組織をキャンパス毎に

入力する場合には、同欄に「A、B、C・・・」とアルファベット記号を付してください。

#### (2) 支援内容

(1) で入力した組織が所掌する支援内容について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 修学支援に関するもの[教務・学習関係]
- b キャリア教育に関するもの
- c 就職支援に関するもの
- d 対人関係、心理・性格の相談に関するもの
- e メンタルヘルスの支援に関するもの
- f 障害のある学生への支援に関するもの
- g 生活支援に関するもの[事件事故防止に関する指導、施設等への支援など]
- h 経済的支援に関するもの
- i 留学生への支援に関するもの[外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学への支援]
- j 課外活動支援に関するもの[部・サークル活動等]
- k その他(具体的に： )

#### (3) 担当人数

(1) で入力した組織の担当人数を、次の区分毎に入力してください。

職員：常勤

非常勤

教員：常勤本務(当該組織に主として所属している者)

常勤兼務(別の学内組織に主として所属している者)

非常勤

入力例	キャンパスの別	(1) 組織名称 (入力してください)	(2) 支援内容										(3) 担当人数					
			a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	職員		教員		
			修学支援	キャリア教育	就職支援	対人関係、心理・性格の相談	メンタルヘルスの支援	障害学生支援	生活支援	経済的支援	留学生への支援	課外活動支援	その他( )	常勤	非常勤	常勤本務	常勤兼務	非常勤
全学的に 入力する場合	全	学生課		○	○	○		○	○	○	○	○		16	6			
	全	学生相談室	○			○		○	○					2	2	2		6
	全	学生支援センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○			20	15	3	2	4
キャンパス毎に 入力する場合	A	○○キャンパス 学生課			○	○		○	○	○	○	○		10	3			
	A	学生相談室	○			○		○	○					1	1	1		3
	B	××キャンパス 学生課		○										6	3			
	B	学生相談室				○			○					1	1	1		3



2-④ 学生の抱える多様で複合的な課題に対して、貴学の組織は十分に対応できていると考えていますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a 十分に対応できている
- b ある程度対応できている
- c あまり対応できていない
- d 全く対応できていない

2-⑤ 一定の専門的知識や技能を以って学生支援に従事することを主たる職務とする、専門的なスタッフを配置していますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a 配置している（2-⑥もお答えください。）
- b 配置していない

2-⑥ 2-⑤で「a 配置している」を選択した場合、配置しているスタッフの詳細について、下の入力例にならって入力してください。

※ここでは、◎就職支援、学生相談以外で、該当するものをお答えください。

（◎は後にそれぞれの設問があるため）

入力例	職名	課している資格 (あれば)	職種 (教員/職員/その他)	常勤/非常勤	任期	人数	支援領域
	学生支援コーディネーター	社会福祉士	その他	常勤	なし	2	下から選択
	アカデミック・アドバイザー		職員	常勤	なし	3	下から選択

支援領域：

1 修学支援に関するもの	5 経済的支援に関するもの
2 キャリア教育に関するもの	6 留学生への支援に関するもの
3 障害のある学生への支援に関するもの	[外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学への支援]
4 生活支援に関するもの	7 課外活動支援に関するもの
	8 その他 ( )

2-⑦ 学生支援領域に関する教職員の能力開発に関して、貴学ではどのような取組を実施していますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

※ここでは、◎就職支援、学生相談以外で、該当するすべての項目に○をつけてください。

（◎は後にそれぞれの設問があるため）

- a 人事考課制度や目標管理制度を導入し、人事と結びつけた能力開発を実施している
- b 学内での研修会を実施している
- c 学外での研修会に教職員を大学等の業務として派遣している
- d 学外での研修会への教職員の自主的な参加を推奨している
- e 一定の業務に携わる場合には、大学等として各種資格の取得を義務付けている
- f 一定の業務に携わる場合には、大学等として各種資格の取得を推奨している
- g その他（具体的に： ）



### 【Ⅲ キャリア教育・就職支援】

4 貴学におけるキャリア教育についてお答えください。

4-① 貴学が必修科目として設定した、キャリア教育の科目の開設状況について、該当する項目を1つ選択してください。また、開設している場合（「a」または「b」に該当する場合）には、必要な事項を入力してください。

- a 全学で開設している  
[対象年次：( )年次（複数年次の入力可）]
- b 学部あるいは学科単位で開設している  
[対象年次：( )年次（複数年次の入力可）]
- c 開設していない

4-② 貴学が必修科目としてキャリア教育の科目を開設している場合、授業担当者（成績評価に一定の責任を持つ者）について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 専任教員（大学院・学部等所属）
- b 専任教員（大学院・学部等所属以外）
- c 特定有期雇用教員（特任教員等）
- d （学内非常勤講師としての発令を受けている）職員
- e （大学教員を本業とする）非常勤講師
- f （大学教員を本業とする者以外の）非常勤講師
- g その他（ )

4-③ 上記のキャリア教育の科目について、授業担当者（成績評価に一定の責任を持つ者）の指導の下、授業の一部を担当する方がいる場合には、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 職員
- b 就職支援関連企業（就職支援情報企業、経営者協会など）の民間企業社員
- c 一般の民間企業社員
- d 地域の経済団体等の構成員
- e 地方公共団体職員
- f 公益法人、NPO等の職員
- g その他（ )

5 貴学におけるインターンシップ（※）についてお答えください。

※教育実習・医療実習・看護実習などの、特定の資格取得を目的とするものを除く。

5-① 貴学において、インターンシップを実施していますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a はい（5-②から5-⑤もお答えください。）
- b いいえ（5-⑥もお答えください。）

5-② 5-①において「a はい」を選択した場合、貴学のインターンシップの実施状況について、該当する項目を1つ選択してください。

- a すべての学部・学科において開設している
- b 一部の学部・学科において開設している  
〔実施学部数：( ) 学部中 ( ) 学部〕  
〔実施学科数：( ) 学科中 ( ) 学科〕
- c 一般教養科目の単位認定用の科目として開設している
- d 開設していない（正課外のみ実施している場合を含む）

5-③ 5-①において「a はい」を選択した場合、インターンシップの担当者はどなたですか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 教員（常勤）
- b 教員（非常勤）
- c 職員（常勤）
- d 職員（非常勤）
- e その他（ ）
- f いない

5-④ 5-①において「a はい」を選択した場合、担当者の中に専門的な訓練等を受けた方はいますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a キャリアコンサルタント等の資格を取得した者
- b JASSO等の研修会、ワークショップを受講した者
- c その他（ ）
- d 専門的な訓練等を受けたものはいない

5-⑤ 5-①において「a はい」を選択した場合、担当者として学外からの人材の採用・配置をしていますか。その方々に該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 企業等の人事担当経験者
- b 就職支援関連企業等の経験者
- c 卒業生
- d その他（ ）
- e 採用・配置していない

5-⑥ 5-①において「b いいえ」を選択した場合、インターンシップを実施していない理由は何ですか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 組織的な理由（人員・体制不足）
- b 受入先の不足
- c 「インターンシップ（という活動）」に必要性を感じない
- d 「インターンシップ科目を大学等で開設すること」に必要性を感じない
- e その他（具体的に： ）





**7** 進路等を把握するための現況調査について、平成 28 年度の実施状況をお答えください。

7-① 卒業年次の学生全員に対する調査を実施していますか。該当する項目を1つ選択してください。  
また、「a 実施している」を選択した場合には、その実績についても入力してください。

- a 実施している [平成 28 年度実績 ( ) 回] (7-②もお答えください。)
- b 実施していない

7-② 7-①で「a 実施している」を選択した場合にお答えください。調査を「進路状況の把握」以外に活用されていますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 進路未決定の学生に対する指導・支援
- b 次年度以降に卒業する学生に対する指導・支援
- c キャリア教育や就職支援の成果の検証
- d その他(具体的に: )
- e 「進路状況の把握」以外に特に活用はしていない

7-③ 卒業生の現況調査を実施していますか。該当する項目を1つ選択してください。また、実施している場合には、必要な事項を入力してください。

- a 全学で実施している (7-④もお答えください。)  
[卒業後 ( ) 年目に実施]
- b 学部あるいは学科単位で実施している (7-④もお答えください。)  
[卒業後 ( ) 年目に実施]
- c 全学で対象を抽出して実施している (7-④もお答えください。)  
[卒業後 ( ) 年目に実施]
- d 学部あるいは学科単位で対象を抽出して実施している (7-④もお答えください。)  
[卒業後 ( ) 年目に実施]
- e 実施していない

7-④ 7-③で「実施している」を選択した場合にお答えください。調査を「現況の把握」以外に活用されていますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 未就職者や離職者に対する支援
- b 卒業年次の学生に対する指導・支援
- c 次年度以降に卒業する学生に対する指導・支援
- d その他(具体的に: )
- e 「現況の把握」以外に特に活用はしていない





**【IV 生活支援】**

**12** 学生に関わる事件・事故の防止等に関する学生への指導・啓発について、どのような取組を実施しているかお答えください。

12-① 下表の事項1～16について、a～hのうち実施しているすべての取組項目に○をつけてください。また、現在、特に対応が困難な事項の上位3つを選択し、順位を入力してください。

事項	a ガイダンス	b 授業 (初年次)	c 授業 (初年次を除く)	d 学内 広報物 による 周知	e ホーム ページ に掲載	f 啓発的 な講演 会等の 開催	g 教職員 に対する 研修	h その他 の取組 (SNSの 活用等)	現在、特に 対応が困難 なもの (上位3つ に順位を入 力)
1 薬物乱用防止に関すること(※)									
2 飲酒問題に関すること									
3 喫煙問題に関すること									
4 消費者問題に関すること									
5 年金問題に関すること									
6 カルトに関すること									
7 SNS等の利用に関すること									
8 マナー・モラルに関すること									
9 ハラスメント防止に関すること									
10 デートDV防止に関すること									
11 性犯罪の加害防止・被害予防に関すること									
12 メンタルヘルスに関すること									
13 身体の健康管理に関すること									
14 通学上の安全に関すること									
15 海外渡航時の安全確認に関すること									
16 その他(具体的に： )									

※ 薬物乱用とは、医療品を医療目的からはずれて使用すること、医療目的に使われない薬物を不正に使用することを意味します。

12-② 12-①で「h その他の取組」に○をつけた場合にお答えください。12-①の表から事項(1～16)を選択し、貴学の特色があると思われる取組をなるべく具体的にお答えください。

事項 (1～16を入力)	特色ある取組を具体的に入力してください

**13** 学生生活に関する施設の設置状況についてお答えください。

13-① 下表の a～i の施設について、設置しているすべての施設に○をつけてください。

また、平成 28 年度以降、平成 29 年度末までに新設または増設した（する）施設については◎をつけ、その理由をお答えください。

施設名	設置している (○を入力)	平成 28 年度～ 29 年度末までに 新設・増設 (◎を入力)	新設・増設した (する)理由
a 保健管理施設			
b 課外活動施設（サークル施設など）			
c 食堂・喫茶			
d 学生プラザ・フリースペース			
e 託児所（学生の子どもを受入れ対象とする）			
f 学生団体のための部屋			
g 学生寮（寄宿舎）			→13-③へ
h 障害のある学生の休息室等			
i その他（ ）			

13-② 13-①の a～i の施設の利用に関して、特に工夫していることがあれば、なるべく具体的にお答えください。

施設 (a～iを入力)	工夫している内容を具体的に入力してください 例)○食堂に一人席やスピード席を設置している。地産地消メニュー、ハラル食を提供している。 ○英語や異文化に接することができる国際交流ラウンジを設置している。

13-③ 13-①で「g 学生寮（寄宿舎）」を新設・増設した（する）場合のみお答えください。新設・増設した（する）理由について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 学生の経済的問題への配慮
- b 快適な生活環境の提供
- c 遠方からの学生の確保
- d 外国人留学生の確保
- e 大学等への帰属意識の醸成
- f 共同生活を通じた規律意識の醸成
- g コミュニケーション能力の向上
- h 問題解決能力の修得
- i リーダーシップの修得
- j 正課の学修成果の向上
- k 日本人学生と外国人留学生との共同生活による異文化理解・外国語能力の向上
- l その他（具体的に： ）

13-④ 学生寮（寄宿舎）についてお答えください。学生寮（寄宿舎）を設置していない場合は（1）のみ、既に設置している場合はすべての設問にお答えください。

（1） 今後（平成30年度以降）、学生寮を新設または増設する予定はありますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a ある
- b ない

（2） 学生寮の保有形態について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 自己所有
- b 借り上げ
- c その他

（3） 学生寮の運営形態（※）について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 学校による直接運営
- b 運営を外部に委託
- c 学生による自治（（4）もお答えください。）
- d その他

※学生寮の運営形態：

学校による直接運営とは、大学が学生寮の運営を全面的に管理する形態です。運営を外部に委託とは、学生寮の管理・運営業務を民間業者等に委託する形態です。学生による自治とは、学生自治組織等により寮生が自ら学生寮の管理・運営をしている形態です。

（4） （3）において「c 学生による自治」を選択した場合、大学等の関与の仕方やその深度・頻度の観点から、学生による自治について詳細を入力してください。また、その他に問題点、もしくは、今後の計画等がありましたら、なるべく具体的にを入力してください。

（5） 学生寮の定員を入力してください。学生寮が複数ある場合は、学生寮全体の総定員を入力してください。

定員[  名 ]、うち外国人留学生[  名 ]

（6） 学生寮の入居学生の形態について、該当する項目に○をつけてください。学生寮が複数ある場合で学生寮によって形態が異なる場合も、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 日本人学生のみ
- b 外国人留学生のみ
- c 日本人学生と外国人留学生（混住型）

（7） 平成29年9月1日現在の入居者数についてを入力してください。学生寮が複数ある場合は、学生寮全体の入居者数を入力してください。

入居者数[  名 ]、うち外国人留学生[  名 ]



(12) 学生寮に関して、課題となっていることがありましたら、なるべく具体的にお答えください。  
( )

**14** 学生生活支援（学生が関わる事件・事故の防止等に関する学生への指導・啓発、学生生活に関する施設の設置等）に関して、課題となっていることがありましたら、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 施設の管理運営
- b 施設の不足
- c 学生への情報伝達・啓発
- d 留学生に関すること〔外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学への支援〕
- e 障害のある学生に関すること
- f 学生の防犯意識に関すること
- g 学生支援のための組織・人員体制に関すること
- h 教職員の理解不足
- i 経済的問題に関すること
- j 地域・周辺住民に関すること
- k その他（具体的に： )





**18** ピア・サポート（※）等、学生同士で支援する制度の実施状況についてお答えください。

※ピア・サポート：学生生活上で支援（援助）を必要としている学生に対し、仲間である学生同士で気軽に相談に応じ、手助けを行う制度。

18-① ピア・サポート等、学生同士で支援する制度の実施状況について、該当する項目を1つ選択してください。

- a 実施している（18-②および18-③もお答えください。）
- b 実施していない（18-④もお答えください。）

18-② 18-①で「a 実施している」を選択した場合にお答えください。貴学として、今後ピア・サポートの取組をどのようにしていきたいですか。該当する項目を1つ選択してください。また、「c」または「d」に該当した場合には、必要な事項を入力してください。

- a 拡充
- b 現状維持
- c 縮小 [理由：( )]
- d 廃止 [理由：( )]

18-③ 18-①で「a 実施している」を選択した場合にお答えください。ピア・サポートとしての具体的な活動を下の例にならって入力してください。

(入力例)

名称 (あれば入力してください)	報酬 (1時間)	支援領域 (該当するすべての項目に○)								
		a	b	c	d	e	f	g	h	i
学生メンター	無給	○		○				○		
就活サポーター	無給			○						
スチューデントアシスタント	900円	○								

支援領域：

- a 学習サポート
- b 修学相談（履修相談等）
- c 就職アドバイス
- d 学生寮（寄宿舎）内の生活支援（レジデント・アシスタント等）
- e 障害のある学生への支援
- f 留学生支援〔外国人留学生への支援、日本人学生の海外留学への支援〕
- g 学生生活上の支援（障害学生支援・留学生支援を除く）
- h 学生間の仲間づくり
- i その他（ ）

18-④ 18-①で「b 実施していない」を選択した場合にお答えください。

貴学として今後実施したいと思っておりますか。該当する項目を1つ選択してください。

- a 実施したい
- b 考えていない

**19** 学生のボランティア活動に対する支援についてお答えください。

19-① 学生のボランティア活動に対する支援について、該当する項目を1つ選択してください。

- a 実施している (19-②および19-③もお答えください。)
- b 実施していない

19-② 19-①で「a 実施している」を選択した場合、支援内容について、該当するすべての項目に○をつけてください。また、「i」を選択した場合には、必要な事項を入力してください。

- a ボランティア活動に参加する学生への修学上の配慮
- b ボランティア活動に関する授業科目の設置 (単位認定)
- c ボランティア募集に関する情報収集・提供
- d ボランティア活動を希望する学生と受入れ先との調整
- e ボランティア活動に参加する学生対象の事前研修会等
- f ボランティア活動における事故に対応する保険の加入指導
- g ボランティア活動に対する経済的な支援
- h 大学等においてボランティア事業を企画・実施
- i ボランティア活動専門の部署を設置 [部署名：( )]
- j ボランティア活動専任スタッフを配置
- k その他 (具体的に： )

19-③ 19-①で「a 実施している」を選択した場合、実施している分野について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 国内の災害地への援助活動 (災害地への物資援助などの救助活動、募金活動等)
- b 地域社会活動 (自治体の手伝い、消防・防災・交通安全などの活動、村・町おこし)
- c 国際交流・協力活動 (外国人留学生や外国人の相談相手、通訳、ホームステイなど)
- d 自然・環境活動 (生物・植物の保護、掃除などの環境整備、リサイクル活動など)
- e 保健・医療活動 (病気の人の手助け、健康を守る活動など)
- f 福祉活動 (お年寄りや障害のある人などを助ける活動など)
- g 教育・文化・スポーツ活動 (子どもの学習の面倒をみる、生涯学習活動、伝統文化の継承、博物館美術館などでの作品説明、史跡など観光施設の説明、スポーツ教室)
- h その他 (具体的に： )



## 【VI 学生相談】

本項目は、学生相談室・カウンセリングセンター・保健管理センター等で、学生の悩み等について相談・支援する活動を対象としています。

### 21 学生相談の内容についてお答えください。

- 21-① 学生相談の内容について、前回調査時（平成27年度）と比較して、件数が増えている項目はありますか。下表の1～13の項目について、該当する記号（a～d）を1つ選択してください。

- |           |
|-----------|
| a 増えている   |
| b 変わらない   |
| c 減っている   |
| d 把握していない |

- 21-② 過去2年（平成28・27年度）の学生相談件数を入力してください。件数を把握していない場合には「-」を入力してください。

※ 学生の相談に対応する独自の組織（学生相談室等）、保健管理センターや保健室等における、学生相談の延件数を入力してください。

※ 同一学生から複数の相談内容があった場合は、該当する項目それぞれに件数を入力してください。

項 目	21-①	21-②	
	a～dから 1つ選択	平成28年度 件数	平成27年度 件数
相談件数（合計）		件	件
1 対人関係（家族、友人、知人、異性関係）		件	件
2 精神障害（気分障害、不安障害、統合失調症等）		件	件
3 心理・性格（アイデンティティ、セルフコントロール等）		件	件
4 発達障害（自閉症スペクトラム障害、ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）等）		件	件
5 LGBT（性的少数者）		件	件
6 身体障害		件	件
7 修学上の問題		件	件
8 経済的問題		件	件
9 進路・就職		件	件
10 ハラスメント、人権侵害、デートDV		件	件
11 性犯罪		件	件
12 悪徳商法、法律相談		件	件
13 その他（ ）		件	件

- 21-③ 前表の項目「5 LGBT（性的少数者）」について、学生からの相談への対応例がありましたら、なるべく具体的にお答えください。  
( )

**22** 学生相談に関する組織についてお答えください。

- 22-① 学生相談に対応する組織・人について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 学生の相談に対応する独自の組織（学生相談室等）（22-②もお答えください。）
- b 保健管理センターや保健室など（22-②もお答えください。）
- c 学生部（課）等の事務組織
- d 学生支援センター等の総合的な組織
- e クラス担任、指導教員等の教員
- f 学生委員会等の委員会組織
- g その他（ ）

- 22-② 22-①で「a」または「b」に該当した場合、1週間当たりの開室時間を入力してください。

- a [開室時間：1週間当たり（ ）時間]
- b [開室時間：1週間当たり（ ）時間]

- 22-③ 学生相談に対応する組織では、個別相談以外にどのような活動がなされていますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 学生生活等に関する授業
- b 心理教育的ワークショップ
- c 自助グループの支援（当事者学生が運営するグループ。発達障害、LGBTなど）
- d 各種グループ活動（学生相談組織が主催するグループ活動）
- e 居場所による援助活動（※）
- f スクリーニング調査
- g リーフレットの作成・配布
- h 一般教職員を対象とした学生対応等に関する研修
- i その他（具体的に： ）

※談話室や懇談室等の名称で学内適応や活動の拠点として学生に居場所と交流の機会を提供するものを指します。

- 22-④ 学生相談に対応する組織と学内の他組織との連携状況について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 全学的に定期的に連絡会議を行っている
- b 担当組織間で定期的に会議を行っている
- c 担当者間で連絡を取っている
- d 学生支援関係の委員会に参加している
- e 危機管理関係の委員会に参加している
- f 特に連携していない

22-⑤ カウンセラー（※）および医師の配置状況について、該当するすべての項目に○をつけてください。また、a～bに該当した場合には、必要な事項を入力してください。

※ここでの「カウンセラー」とは、「臨床心理士」あるいは「大学カウンセラー」（「日本学生相談学会」認定）の資格を持つものとします。

- a カウンセラーを配置している [人数：常勤（ ）名、非常勤（ ）名]
- b 医師を配置している [人数：常勤（ ）名、非常勤（ ）名]
- c いずれも配置していない

**23** 学生相談にかかわる教職員等の知識・技能の向上のため、どのような取組を実施していますか。該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 人事考課制度や目標管理制度を導入し、人事と結びつけた能力開発を実施している。
- b 学内での研修会を実施している
- c 学外での研修会に教職員を大学等の業務として派遣している
- d 学外での研修会への教職員の自主的な参加を推奨している
- e 大学等として各種資格の取得を義務付けている
- f 大学等として各種資格の取得を推奨している
- g その他（ ）

**24** 学生相談に関する学外機関との連携についてお答えください。

24-① 学生相談に関する学外機関との連携状況について、該当する項目を1つ選択してください。

- a 連携している（24-②もお答えください。）
- b 連携していない

24-② 24-①で「a 連携している」を選択した場合、連携している学外機関について、項目ごとに機関名を入力してください。

項 目	連携している学外機関名 (複数入力可)
1 対人関係（家族、友人、知人、異性関係）	
2 精神障害（気分障害、不安障害、統合失調症等）	
3 心理・性格（アイデンティティ、セルフコントロール等）	
4 発達障害（自閉症スペクトラム障害、ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）等）	
5 L G B T（性的少数者）	
6 身体障害	
7 修学上の問題	
8 経済的問題	
9 進路・就職	

10	ハラスメント、人権侵害、デートDV	
11	性犯罪	
12	悪徳商法、法律相談	
13	その他（ ）	

**25** 学生相談に関する課題についてお答えください。

25-① 貴学における学生相談に関する今後の課題として、特に必要性が高いと思われる事項はありますか。下表の1～20の項目のうち、該当するすべての項目に○をつけてください。

25-② 今後、学生相談に関する取組を充実させていくにあたり、貴学単独では実施困難と思われる事項はありますか。下表の1～20の項目のうち、該当するすべての項目に○をつけてください。

項 目	25-① 必要性 が高い	25-② 単独では 実施困難
1 悩みを抱えていながら相談に来ない学生への対応		
2 学生への予防教育的活動		
3 学生の保護者への対応		
4 複雑かつ多様な相談内容への対応		
5 精神的危機の状況にある学生への対応		
6 障害のある学生への対応		
7 外国人留学生向けの学生支援		
8 相談員の増員		
9 相談員の専任化		
10 相談員の専門性の向上		
11 相談員の待遇の改善		
12 相談員と教職員との連携・協働		
13 相談員や教職員に対する研修		
14 学生相談の体制・環境整備		
15 学生相談対応のためのマニュアル作成		
16 学内の他の学生支援部門との連携		
17 学外の専門機関（医療機関・学生相談機関等）との連携		
18 他大学等の先進的取組等の情報収集		
19 外国の大学等における取組の情報収集		
20 その他（具体的に： ）		



**【Ⅶ 成績不振学生・不登校学生等】**

**26** 修学に関する相談について、下表1～13の項目における最近2年程度の傾向として、a～dのうち該当する記号を1つ選択してください。

相談内容	a～dから 1つ選択
1 授業の内容	
2 外国語の勉強法	
3 数学、物理など理系基礎に関すること	
4 ノートの取り方	
5 レポートや論文の書き方	
6 ICTの使い方	
7 図書館等の利用法	
8 履修登録・科目選択について	
9 プレゼンテーションの方法	
10 授業の進度やレベル	
11 教員との相性や人間関係	
12 授業における友人関係	
13 教員の授業法や授業管理	

- |   |
|---|
| a 増えている<br>b あまり変わらない<br>c 減っている<br>d わからない |
|---|

**27** 成績不振学生、出席状況が悪い学生や不登校の学生についてお答えください。

27-① 成績不振学生として対応している学生についてお答えください。

(1) 成績不振学生として対応している学生について、貴学における判断の基準がありますか。  
該当する項目を1つ選択してください。

- a ある ((2) もお答えください。)
- b ない

(2) (1)で「a ある」を選択した場合、判断の目安としている基準について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 一定の単位取得数を下回った
- b 試験等の成績が一定基準を下回った、特定科目で不合格と判定された
- c GPAが一定の値を下回った
- d 授業を一定の回数、欠席した
- e 留年した
- f 個別に判断
- g その他 (具体的に： )

27-② 出席状況が悪い学生として対応している学生についてお答えください。

(1) 出席状況が悪い学生として対応している学生について、貴学における判断の基準がありますか。

該当する項目を1つ選択してください。

- a ある ((2) もお答えください。)
- b ない

(2) (1) で「a ある」を選択した場合、判断の目安としている基準について、該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 連続して欠席した
- b 特定科目において欠席した
- c 欠席回数・割合が成績判定資格を失う水準を超えた
- d 欠席回数・割合が成績判断資格を失う水準に近づいた
- e 個別に判断
- f その他 (具体的に： )

27-③ 不登校の学生として対応している学生についてお答えください。

(1) 不登校の学生として対応している学生について、貴学における判断の基準がありますか。

該当する項目を1つ選択してください。

- a ある ((2) もお答えください。)
- b ない

(2) (1) で「a ある」を選択した場合、判断の目安としている基準について該当するすべての項目に○をつけてください。

- a 履修科目登録をしていない
- b 連続して欠席した
- c 欠席回数・割合が成績判定資格を失う水準を超えた
- d 欠席回数・割合が成績判定資格を失う水準に近づいた
- e 進級・卒業要件を充足できなかった
- f 一定期間キャンパスに来ない
- g 個別に判断
- h その他 (具体的に： )

**28** 成績不振学生、出席状況が悪い学生や不登校の学生に対する取組について、該当するすべての項目を選択し、全学で統一的に実施している場合は◎、学部あるいは学科単位で独自に実施している場合は○をつけてください。また、wに該当する場合には、必要な事項を入力してください。

項 目	成績不振 学生	出席状況が悪い 学生・不登校学生
a 教務・学生部等／学部・学科が、早期発見のため出席確認を行っている		
b 教務・学生部等／学部・学科が、科目担当者等に出席調査を依頼している		

c	科目担当者等と教務・学生部等／学部・学科との間で、連絡体制を構築している		
d	担任もしくはゼミ・研究室の教員と教務・学生部等／学部・学科との間で、連絡体制を構築している		
e	学生相談のカウンセラー等と教務・学生部等／学部・学科との間で、連絡体制を構築している		
f	担任もしくはゼミ・研究室の教員により面談している		
g	アカデミックアドバイザー等専門職員により面談している		
h	教務・学生部等の関連部署職員により面談している		
i	初年次演習科目等の担当教員により面談している		
j	スタディスキルに関する授業科目を開講している（正課内）		
k	スタディスキルに関するセミナー等を開講している（正課外）		
l	学習支援センター等により個別支援を提供している		
m	学習支援センター等により補習講座を提供している		
n	教職員向けの対応マニュアルを作成している		
o	教職員に対して研修を実施している		
p	学生向けの啓発のリーフレット等を作成している		
q	学生にガイダンス等で説明している		
r	保護者と連絡をとっている		
s	ピア・サポート（※）を活用している		
t	休学制度を柔軟に運用している		
u	進路変更について相談している		
v	I Rデータを活用した修学指導體制を構築している		
w	学外の機関等と連携、ネットワークを形成している [内容：( )]		
x	その他（具体的に： )		

※ピア・サポート：学生生活上で支援（援助）を必要としている学生に対し、仲間である学生同士で気軽に相談に応じ、手助けを行う制度。



大学等における学生支援の取組状況に関する調査(平成 29 年度)  
協力者会議 委員一覧

氏 名	所 属
安部 有紀子	大阪大学 全学教育推進機構 准教授
沖 清豪	早稲田大学 文学学院 教授
○川島 啓二	京都産業大学 共通教育推進機構 教授
佐藤 純	茨城県立医療大学 保健医療学部 教授
立石 慎治	国立教育政策研究所 高等教育研究部 主任研究官
橋場 論	福岡大学 教育開発支援機構 教育 FD 支援室 准教授
望月 由起	日本大学 文理学部 教授

平成 30 年 11 月

(五十音順・敬称略)

(○：主査)

---

---

## 大学等における学生支援の取組状況に関する調査(平成 29 年度)結果報告

発行日 平成 30 年 11 月

発 行 独立行政法人 日本学生支援機構

学生生活部 学生支援企画課 学生支援調査係

〒135-8630 東京都江東区青海 2-2-1

TEL 03-5520-6169 FAX 03-5520-6048

URL <https://www.jasso.go.jp/>

---

---